

## 【小田中康裕先生抄録】

### 1部) 歯科における明度って何だ？！

Keyword: オパシティーコントロール、オパールポーセレンコントロール

前歯部のポーセレンレストレーションでレストレーションの明度のコントロールが適切に調整できなかった場合、高い確率で再生を余儀なくされる。明度のコントロールは、いまだに我々歯科技工士にとって頭を悩ます課題だと私は思っている。色彩学で言われている明度は白～黒と言われているがあくまでもこれは二次元の世界での話である。我々は立体物を製作しておりながらこの明度を当てはめることにより色々問題が生じ、解決することがなかった。そこで今回は臨床における明度の考え方、明度のコントロールの仕方をお話したい。

### 2部) 明度を意識したセラミックスクラウンの製作法

Key word : エマージェンスプロファイル・S シェーププロファイル・蛍光性・2つの明度

臨床を本格的に始めて 20 年程が経ち、その間エマージェンスプロファイルに取り組んできたのであるが、そこには歯肉と補綴物との調和を目指すべく歯科医師行田克則の唱える「S シェーププロファイル」を実践してきた。「S シェーププロファイル」とは、歯科医師が唱える補綴物との調和であり、臨床ケースでは色調も審美においては重要視されるために、歯肉と接する箇所は歯頸部の色調が歯肉、臨在歯の歯頸部に調和させなければ自然観は生まれない。そこで、色調が与える歯頸部の調和としては、適度な透明感と彩度、蛍光性があげられる。日本では蛍光性といえば歯冠部の蛍光性云々が取りざたされることが多いが、一番大切なことは蛍光性によって歯肉部に光が送られて歯肉が健康的に見えるか否かが重要であり、日本の歯科関係者はこここのところを認識していないことが多い。また、彩度が低い天然歯の場合には、色調が白いというだけではなく、それとは別な意味での明度が高くなるという傾向がある、(彩度が低い＝明度が高いというわけではない。)天然歯は独特の明度の高さからシェードガイドの色調と比べて力強さがあり、それと相反するようであるが透明感を持ち合わせているという困った性質を兼ね備えている。そのような傾向の色調再現の場合には歯頸部の色調の調和が特に取りにくいことが多いのである。そこで歯肉に形態が与える調和と、色調が与える2重の調和を如何に考え、製作するかをお話しできたらと思う。